

The logo features the word "CHUOH" in a stylized font with a circular emblem to its left. To the right, "TRY+ANGLE" is written in large, bold, outlined letters, with a plus sign between "TRY" and "ANGLE". Below "CHUOH" is the text "知っ得通信".

2025年3月21日発行

編集・発行:中央教育研究所(株) 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-6

<https://www.chuoh-kyouiku.co.jp>**中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.157-1****＜教室を活性化させる講師研修＞**

新年度が3月からスタートする塾では、今月から新しい気持ちでスタートを切ったことでしょうか、春期講習から新年度がスタートの塾では、今まさに新年度の準備でお忙しいことでしょうか。

新年度は生徒だけでなく、スタッフも新しく入れ替わる時期です。新しく塾講師としてデビューする学生の方々が全国にたくさんいることと思います。「講師の戦力アップ=教室の指導力アップ」ということで、今回は、講師研修について考えてみます。

私どものコンサルは、専任職員を対象にした職員研修のみならず、学生講師・時間講師の方を対象にした講師研修も行っています。それこそ、これまで数え切れないほどの講師研修を実施してきました。

余談ですが、講師研修に行くと、参加者の研修姿勢からその塾(教室)の活力がよく分かります。室長と講師の関係が、研修の中で垣間見えるからです。この教室は伸びるだろうなとか、この教室は苦戦しているな、ということが手に取るように分かるのです。優秀な室長は、生徒だけでなく、講師の先生方にもエネルギーを日々注入して、校舎運営をしているのです。

さて、話を戻して講師研修です。

まず、伝えたいのが、講師研修は禁止事項の羅列で終わってはいけないということです。「これをしてはいけない」ということを徹底する前に、「こういうことをするのが講師だ」という行動原理を教えることのほうが大切です。

講師が自主的な判断をしても、問題が起これないようにするのが研修です。まず、このことを前提とします。講師を自分の都合の良いように動かすための研修ではなく、あくまで、講師が自主的な判断をしても、他塾に負けない指導ができ、適切な対応が出来るようにするためのものなのです。

そのために、研修参加者のモチベーションのボタン(何に動機付けられるのか)を意識する必要があります。

研修では、学生講師が中心であることが多いと思います。そういう場合には、社会に出てからこの講師というアルバイトがどう役立つかを教える必要があります。

たとえば、授業をはじめとして、こんなにコミュニケーションを行うアルバイトはあまりない。これは、「コミュニケーション力」が重視される現代社会において、君たちが社会に出てから良い経験になるから、授業以外でも積極的に自分から生徒へ働きかけてみよう、といった具合に、話しを進行させます。「行動する意味」と「具体的な行動パターン」を伝えながら、日々の自分の行動を自覚させるのです。

こういう研修が、実は、講師管理に大きく影響するのです。管理先行型だと、学生講師は、受身になって、室長の指示を待つ依存度の高い講師になってしまいます。研修で、行動原理を教え、各自が自分の判断で行動をしても良いと促すことで、学生講師は、自律度を高め、活気ある行動を取ってくれるのです。

それでは、講師研修のプログラム例を挙げてみましょう。弊社が行う講師研修の一例です。

中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.157-2

【講師研修プログラム例】

1. 教育定義。

「教育プロセス＝態度変容プロセス」ということを伝える。

指導を通じて、生徒を変化させる。例えば、「生徒が元気になった」という小さなことも態度変容である。

2. 教えることと学ぶことの権力関係を教える。

生徒のほうが教師よりも強い立場にある。生徒の学ぶ合意を講師は取り付けない限り、生徒は、講師から学ばないという本質を教える。

3. コミュニケーションの本質を教える。

同じ情報を発信しても、その情報を受け取る受け手側にすべてが委ねられているという事実をワークショップから理解させる。

4. 承認の仕方を教える。

存在承認・成果承認・未来承認という三つの承認を伝え、「良いところ探し」などのワークショップを行う。

5. ケーススタディ。

代表的な生徒の問題事例を取り挙げて、各講師で意見交換し、行動例をアドバイスする。

講師研修は、いつでも講師の身近なことを例にして考えさせ、未知の何かを提供することが大切です。「講師研修に行かなくては自分の人間力が高まらない」と講師に思ってもらうことが、実は講師研修の目的です。そのことを意識して、講師研修を企画してはいかがでしょうか。

最後に。あなたの教室で働いている講師は元気でしょうか。生き生き働いて、自主的な判断をしているでしょうか。その前提を研修で作ることを企ててみたらどうでしょうか。講師を信用してみたらどうでしょうか。そのためには、室長自らが、講師を知ること、会話をするのが非常に大切なのです。



【MBA編集後記】

お知らせ1

**4月スタート！中土井監修の合同社員研修
「塾人プロ養成研修」で若手社員を即戦力に**

学習塾は、教室にいる「人」によって大きく左右される業界です。

この研修では、生徒・保護者の信頼を集め、人の集まる教室を創るテクニカルスキルを体系的に学びます。東京・大阪の2会場で全3回の開催(単発受講可能)。若手社員のレベルアップや研修担当者のブラッシュアップにご活用ください。

★詳細とお申し込みはこちらから★

<https://management-brain.net/mbaseminar03>

お知らせ2

**中土井主催、学習塾のための経営勉強会
「MBA学習塾経営革新会議」今年も4月に開催決定！**

今年度のテーマ【Web集客で徹底的に生徒を集める！
～中小塾のWeb集客最前線～】

中土井鉄信をコンサルタント、アドバイザーとして、参加者全員で考え、議論し、塾経営を見つめ直す勉強会です。思い描く貴塾の将来を実現させるための経営計画づくりをサポートする2日間となっています。

MBA学習塾経営革新会議 4月19日(土)・20日(日)

★詳細とお申し込みはこちらから★

<https://management-brain.net/mbaseminar>

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド vol.121-1

もうすぐ4月ですね。

次から次へと学校行事が重なる4月ですが、そうした行事の1つに文科省の「全国学力・学習状況調査」があります。

このいわゆる「学テ」をめぐるいま、ちょっとした議論が沸き起こっているのをご存じでしょうか。

震源地は全国知事会で、調査結果の公表が「自治体間の競争を助長する」「学校や地域間の序列化をもたらす」「競争が教職員の負担につながる」恐れありとして一部の知事から強い批判が出され、文科省が目下、専門家会議に諮ってどうすべきかを検討中と言われています。

昨年の学テの調査結果については本稿でも触れたことがありました(24年8月第211号)。

繰り返すのも気が引けるのですが、そんな報道が目に入りましたので改めて調査結果を見直してみると、少々興味深いデータが出て来ました。まずは以下をご覧くださいませ。

Q1: 朝食を毎日食べていますか。

	している	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない
生徒の割合	79.7%	11.9%	5.6%	2.7%
国語正答率	60.2%	54.8%	50.0%	48.7%
数学正答率	55.6%	47.4%	41.6%	40.1%

小6生と中3生を対象に行われる同調査は、ご存じのように「教科に関する調査」と「質問調査」とに分かれています。2つの調査をクロスさせると、それぞれの質問に対する回答ごとに「そう答えた児童・生徒の割合」と「そう答えた児童・生徒の教科正答率」とがわかるようになっていきます。上記は昨年調査の全国の国公立すべての中3生の朝食摂取状況と教科正答率との関係を見ましたが、毎日キッチンと朝食を摂る生徒の割合は79.7%で、国語でも数学でもそうした生徒の正答率が最も高いことがわかります(報告書には「質問調査の回答」と「正答率」との関係を示す「相関係数」も掲載されています)。

では、正答率の高い都道府県とそうでないところでは質問調査の回答にどんな違いがあるのかと、ちょっと調べてみたのが以下のデータです。

具体的には、ここで比べているのは昨年調査で教科正答率TOP3だった石川県、東京都、福井県の公立中3生と全国の公立中3生の平均で、調査には生徒の日常生活や考え方に関わる質問が25問ありましたが、ここでは気になった4問についてのみ取り上げています。

なお、全国平均の教科正答率は国語が58.1%、数学が52.5%、TOP3の石川県はそれぞれ62%と57%、東京都は61%と57%、福井県は60%と57%でした。

また、回答の選択肢は複数ありますが、ここでは正答率の高い選択肢と低い選択肢とをそれぞれひとまとめにしてあります。さらに、「その他・無回答」があるために両者を合わせても100%にならない場合があります。

Q5: 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム※をしますか。

※コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む。

生徒の割合	2時間未満 (全くしないを含む)	2時間以上
全国平均	50.3%	48.9%
TOP3	55.0%	44.1%
石川県	56.1%	43.0%
東京都	51.3%	47.8%
福井県	57.6%	41.6%

学校のある日にテレビゲームに費やす時間です。当然のことながら少ない方が正答率は高くなっています。「2時間未満」の生徒の割合は全国50.3%、TOP3は55.0%。4.7ポイント開いています。25問の中でTOP3と全国平均との開きが最も大きかったのがこの質問です。なかでも福井県は57.6%で、開きは7.3ポイント。ただし、東京都と全国との開きはそう大きくありません。東京都の正答率が高いのには何かほかに要因がありそうです。

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド vol.121-2

Q24: 新聞を読んでいますか。

生徒の割合	月に1~3回程度以上	ほとんどまたは全く読まない
全国平均	17.0%	81.3%
TOP3	21.5%	76.8%
石川県	23.0%	75.5%
東京都	15.5%	82.4%
福井県	26.0%	72.6%

正答率の全国平均をみると、新聞を「読んでいる」生徒の方が正答率は高く、「ほぼ毎日読んでいる」生徒と「ほとんど、または、全く読まない」生徒との間の差は国語6.6ポイント、数学9.0ポイント。意外にも数学のほうが差が大きいんですね。国語のほうが差が出るのならそれなりに理由の見当もつきませんが、数学のほうが高いという理由はよく分かりません。

それはともかくとして、「月に1~3回程度以上読む」の生徒の割合は全国平均が17.0%、TOP3平均が21.5%で、開きは4.5ポイント。25問の中で2番目に開きの大きい質問項目です。ただし、福井、石川の両県と全国平均との差がそれぞれ9.0ポイント、6.0ポイントある一方、こちらも東京都だけは別で、全国平均より1.5ポイントも低くなっています。

Q21: 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む。)

生徒の割合	1時間以上	1時間未満(全くしないを含む)
全国平均	64.3%	35.4%
TOP3	62.7%	36.9%
石川県	59.3%	40.1%
東京都	70.8%	28.9%
福井県	58.1%	41.6%

Q22: 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む。)

生徒の割合	1時間以上	1時間未満(全くしないを含む)
全国平均	63.0%	36.2%
TOP3	66.8%	32.5%
石川県	70.5%	28.8%
東京都	64.7%	34.4%
福井県	65.2%	34.3%

上記2つの質問への回答には少々驚きました。Q21は週日の勉強時間、Q22は土日の勉強時間ですが、土日に1時間以上勉強する生徒の割合がTOP3のほうが3.8ポイント高いのはうなずけるとして、週日に1時間以上勉強する生徒の割合に関してはTOP3のほうが1.6ポイントも少ないという結果が出ています。しかも、石川県は全国よりも5.0ポイント、福井県は6.2ポイントも…。

これは一体どういうことなのでしょう？ 週日は学校でしっかり勉強するので学校外での学習は少しでよい、その代わりに土日休まずにちゃんと勉強した方が効果的、ということなのでしょう。

ちなみに前年の23年4月の同調査によれば、石川県の公立中3生の通塾率は46.6%、福井県は48.9%で、全国平均の60.0%よりも大幅に低くなっています。東京都は70.6%。

お気づきのように「教科に関する調査」で似たような結果を残す地域であっても、その理由に関してはいろいろと特徴があることがわかります。

調査結果の公表について文科省がどういう結論を出すのか、まだよくわかりません。ただ、詳細に公表されればその結果の分析をもとに、学校や教育委員会以外の学習塾を含めたさまざまな機関からさまざまな対策が講じられ、教育の地域格差の縮小におおいに役立っていくはず。感情的ではなく冷静な議論を期待したいと思います。